
ドロップス

雪野椿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ドロップス

【コード】
N7899F

【作者名】
雪野椿

【あらすじ】
神は気まぐれ。その町に降る雨は、神の涙か、ドロップか。

ビルの窓に何か激しくぶつかる音がして、正行は舌打ちをした。朝は快晴だったから油断していた。外を黒いものが間断なく降っていて、強化ガラスをガタガタ揺らしている。残業中の二十二時過ぎ、外は暗くて何かわからない。

この町でのこういう油断は命取りになる。分かっていたが、月に一度あるかなしかのことだから、たまに気が緩む。とりあえず現状を把握するために、正行は町役場のサイトを開いた。

二十二時五分頃、神座山からエコーを受信。天候が変わる恐れあり。二十二時十二分、現在バナナが降っています。

バナナか。正行はげんなりした。

非常時のために、町の企業は傘を用意することが義務付けられている。薄いステンレスの傘で、普通の傘に比べれば相当に重い。盾のようなものだ。だがそんな傘があったところで、バナナが空から降ってきたらどうなるか、考えたくもない。

町の北の山には、神が住んでいる。真偽も何故かもわからないが、とりあえず住んでいるらしい。この神がとにかく泣き虫で、神が泣くと色々なものが降ってくる。本当に涙かどうかはわからないが、涙ということになっている。

子供向けの歌に、泣き虫の神様が流した涙がドロップになったというのがあったが、正行は子供のころにその体験をした。しかし、ドロップなぞ降ってきた日には、霰と変わらない。あたりは甘い匂いが充満し、ベトベトで、飴の破片や窓ガラスや雨戸の木片が飛び散っていた。メルヘンとは程遠い光景で、子供心にとてもシヨックだった。最近では、ステンレス製の雨戸をつける家が多い。

女心と秋の空、とはいうものの、ここの神様は、女心よりも気まぐれだ。まさに、山の天気は変わりやすい、と言ったところだ。更に神が神たるゆえんは、人とは規格が違う、ということだろう。涙

の成分がナトリウムでもカリウムでもなく、リンゴだったりミカンだったり、羽毛だったりする。

ただしこの町は、さすがに神と長くつきあってきただけあって、したたかだった。降ってきたものを、なるべく上手にキャッチする設備を整えた施設がある。どういう気分で流した涙がそうなるのかわからないが、神が降らしたアニマルレインたる魚や鳥は、一応きれいに洗浄し消毒し、「神の御恵み」として皆でおいしくいただく。種類によっては埋葬する。または、観光客相手に商売をする。

ただし、そうやって得た収入は、必ず町のために使われなければならぬ。もしくは、神が降らした生モノを片付けるための費用にあてる。特に夏場のアニマルレインは死活問題だ。

昔、これでひと儲けをたくらんだ人間がいたらしい。神が降らしたものを高値で売りさばき、私腹を肥やそうとしたが、神の怒りにあい、文字通り槍が降った。当事者にも関係のない町の人間の上にも等しく降った。

そして文字通り、血の雨が降った。シャレにならない話だ。

正行は、会社に用意されていた傘を両手で掲げ持ち、ロビーを出た。本当にシャレにならない話だ。このバナナも、昔話も。

本当に神がそれに怒ったのか、それとも関係のない気まぐれだったのか、誰もわからないところが特に。

終わり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7899f/>

ドロップス

2010年10月15日21時01分発行